様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３３９１７
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１６９６７

研究課題名（和文）中国雲南省国境地域におけるモン衣装の流通と消費に関する文化人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Study of Marketing and Consumption of Hmong Dress in the border region of Yunnan, China

研究代表者
宮脇　千絵（Miyawaki, Chie）

南山大学・人文学部・准教授

研究者番号：３０６３７６６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：中国雲南省を中心に、貴州省、ベトナム、ラオスにおいて、モン（ミャオ族）の既製の「民族衣装」が、いかに流通、消費されているかに関してフィールド調査を実施し、その成果を、国内外の学会発表、論文等によって発表した。モンが居住する国境を跨いだ地域では、近年「民族衣装」の素材やデザインの変化が顕著であるが、その変化は、当地のモンの人々によるエスニシティの再解釈が大きく作用していることが明らかになった。本研究では、ローカルに根ざした小規模だが国境を越えた流通と消費の動態を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
文化人類学の視点から新たな消費文化論の確立を目指していた本研究では、中国雲南省およびその周辺地域におけるモン衣装の生産、流通、消費の考察をおこない、ローカルな文脈に根ざしたその動態を明らかにした。本研究では、現代的な商業活動における「民族衣装」の意味とその位置づけ、商業活動と「民族衣装」の表象との相互関係、およびこれら商業活動を促進させるモン女性の稼得労働の実践について考察した。本研究の意義は、消費を切り口として「民族衣装」とは何かを明らかにすることで、文化人類学から現代消費文化を論じる枠組みを提示したとともに、装いの文化論の外縁の拡大させたことにある。

研究成果の概要（英文）：This study consisted of field research related to the marketing and consumption of ready-made Hmong (Miao) ethic dress among the border regions in Yunnan and Guizhou in China, Vietnam, and Laos.The results of this three-year research project were presented at domestic and international conferences and through published papers.
The study revealed that the reinterpretation of ethnicity by Hmong has affected the multifaceted changes in sites of production in terms of materials, techniques, patterns and design in the border regions where Hmong live. This study illustrates the dynamics of small-scale but cross-border marketing and consumption based on local practices.

研究分野：文化人類学

キーワード：モン　ミャオ族　装い　民族衣装　消費　中国　雲南省

１．研究開始当初の背景

グローバル化の進展により、世界各地の伝統的な布や衣服は、世界規模での消費と不可分になっている。伝統的な布や衣服がいかに生産されてきたのかは、当該社会において、親族や血縁を基盤とする集団組織や、身分や階層など多様な社会関係に基づいてきた。またその使用をめぐっては、富や権力の象徴、民族集団や社会的階層の表象、交易や贈与の対象として論じられてきた。近現代の消費の拡大に伴い、ローカルな生産の場がいかに多様に意味づけを拡大させているのか、また商品となった布製品や衣服が、西洋のファッションとの出会いによるファッション化/反ファッション化しているという事例が蓄積されてきた。

だがこれらの議論では、生産者と消費者の乖離によるローカルな文脈を離れた市場経済の論理に消費の要因を求める傾向にある。しかし、消費の要因は経済のみならず、その背景にある文化や社会の行動原理とも連動していることを鑑みると、その衣装のローカルな文脈での装いの理論を解明する必要がある。こうした問題を克服するには、詳細なフィールド調査に基づく文化人類学的な視点から、消費を語る新たな方法論が求められる。

そこで本研究においては、中国雲南省文山のモン（ミャオ族）の装いに着目した。モンの装いは、1990 年代以降に広まった、日常着あるいはハレ着としてのファッション性を重視した流行の衣装の他、中国都市部の漢族を消費者としたもの、大麻製の手織り布に、ろうけつ染めや刺繍をほどこした伝統的な衣装と、多様な商品展開をみせている。さらに各衣装の流通経路は、ベトナム北部、ラオス北部、中国都市部と異なることが確認された。そこに介在する商人（仲介人）の履歴や役割もさまざまであり、インターネットを通じた売買も盛んになっている。また、染織技術や知識の文化遺産登録や民族博物館の開館による「伝統」への再評価が、「伝統民族衣装」の需要を高めていると考えられるなど、それぞれの需要と消費の目的や意味も異なる。

このような決して大規模な市場経済に接続していないにも関わらず、商品の性格、流通経路が多様化しているモンの衣装は、いかに消費され、その背景にはどのようなロジックが作用しているのだろうか。このような問題意識のもと、モンの衣装の現代的流通と消費の様相を明らかにする本研究課題の着想に至った。

２．研究の目的

上記の問題意識を踏まえ、モン衣装の流通経路、消費のされ方を、それぞれの担い手である商人の動態に着目して検討することで、民族衣装から洋服への過渡期にあるモンにとって、これらの衣装がいかに着用され、文化的意味をもつのか、そこに内在する装いの論理を明らかにすることを目指した。これを通じて、市場の経済論理だけに拠らない、文化や社会的側面からの消費のロジックを明らかにし、現代消費文化論の新たな視座を提示することを目的とする。

３．研究の方法

三年間の研究期間に、聞き取りと参与観察による現地調査、文献調査を実地した。現地調査は、モン衣装の流通と商品展開に関して、次の通りおこなった。

（1）2016 年度：中国雲南省、貴州省
（2）2017 年度：中国雲南省、ラオス・ルアンパバーン、ベトナム・サパ、バクハ
（3）2018 年度：中国雲南省

文献調査は、国内および中国で資料渉猟をおこなうとともに、2018 年度に大英図書館（イギリス）においても実施した。

これら調査で得られたデータを、国内外の学会やシンポジウム、研究会で報告することを通じ、考察を深めた。

４．研究成果

本研究による主な研究成果は以下の通りである。

（1）「民族衣装」とは何か

本研究では、雲南省文山とその周辺地域におけるモン衣装の流通と消費を分析することで、そこに付されている民族性がいかに保たれているのかを検討することができた。雲南省文山において既製服として多様に商品展開され、周辺地域にも流通しているモン衣装は、もはや染織や刺繍といった手仕事によるものではなく、衣装形態やデザインも大きく変化をしている。「伝統」とはいえないこれらはいかにして「モンの衣装」として認識されているのか、すなわちモンの「民族衣装」として機能しているのだろうか。そこには、モンの自他意識の在り方が作用していると、本研究では考察した。1980 年代以降の中国において、民族文化のユニークさを確立し、それぞれアピールすることが、民族のアイデンティティ強化や経済的発展のため急務となっている。このような状況において、「民族衣装」に求められるのは、その物質性というよりは、他民族との差異化にあると考えられる。つまり、モン衣装がモン衣装らしくあるためには、近隣の他民族の衣装とは明らかに異なる特徴を持つこと、そしてモン自身が「これはモンの衣装だ」と認識することが重要となる。そのため、素材やデザイン、形態がいかに「伝統」から逸脱しようとも、モンの衣装は、モンと他民族との関係性において「民族衣装」であるといえる。このような考察に基づき、本研究では、現在、文山およびその周辺国を含めた地域において生産、流通、消費されているデザイン性の高い流行のモン衣装も、「民族衣装」として機能していることを明らかにした。これにより、伝統的な布や衣装は、生産者と消費者の乖離による

ローカルな文脈を離れた市場経済の論理によって生産、消費されているとうい従来の消費文化論に対し、ローカルな文脈に根付いた「民族衣装」の流通、消費について新たな視座を提示できたと考える。

（2）民族文化の表象との相互関係

中国少数民族の文化は、2000 年代以降、観光資源として、あるいは文化遺産の対象として、新たに価値づけられ始めている。雲南省文山においても、2014 年に文山州博物館がリニューアルオープンした。また 2015 年には、あるモン男性による私設博物館が設立された。このようにして、当地のモンの人々にとっても、自民族文化の表象が、身近なものとなりはじめている状況がある。本研究では、文山州博物館の館長へのインタビューおよび私設博物館における観察と聞き取り調査を実施し、それらがどのようにモン文化（衣装）を表象、展示しているのかを考察した。そこから、彼らが保存、継承すべきだと考えているモン衣装が、いわゆる「伝統」的なものであることが明らかとなった。ここでいう「伝統」的なモン衣装とは、大麻を素材とした布に、ろうけつ染めや刺繍をほどこしたものであり、1990 年代ごろまでに製作されたものである。現在、市場に流通しているモン衣装は、「商業化したもの」、「移り変わりが激しく民族性がないもの」として、博物館展示からは退けられている。しかし現実には、もはや「伝統」的な衣装は文山においてほぼ現存しておらず、博物館の収集活動が、モンの既製服販売に携わる人々の商業活動にも少なからず影響を与えていることが明らかとなった。すなわち、「伝統」的な衣装が希少性によって高価に取引をされたり、新たに「伝統」的な布や衣装を製作し、販売する者があらわれたりしている。今後も、民族文化の表象と、モン衣装の商業活動がいかに相互に影響し合っているのかに関して分析を進めていく必要がある。

（3）モン衣装販売業に携わる女性たちの経験

モン衣装の製作と販売に携わっているのは、ほとんどが地元のモン女性である。このようなモン衣装販売業は、雲南省文山において年々拡大し、それに携わる女性が増加している状況にある。本研究においては、彼女らへの継続的な聞き取りから、モン女性の稼得労働への参画のプロセスと、その手段としてなぜ衣装販売が選択されるのかの考察をおこなった。彼女らが衣装販売を稼得労働として選択する理由として、以下のことが挙げられる。まず、衣装製作がモン女性にとって、かつては家事労働の一環であったため、取り組みやすい仕事であったこと。次に、中国沿海部などの遠方への出稼ぎよりも、地元文山で働くことのほうが、女性のライフコースの変化にも適していると考えられ、選好されていること。現在では、夫や兄弟といった男性も巻き込みながら、モン衣装販売業がますます活況を呈している。本研究では、モン衣装販売業が地元モン女性にとっての稼得労働として選好されていることを明らかにするとともに、このような同省者間の競争的原理が、モン衣装のデザイン性を高め、「伝統」からの逸脱に拍車をかけていると考えており、今後も引き続き分析を進める予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　2　件）

① 宮脇千絵、民族表象と経営―中国ミャオ族／モンの「文化伝承保護館」の取り組みから―、人類学研究所研究論集、査読無、6 号、2019、80-96

② 宮脇千絵・風戸真理、（特集論文）序：装いの人類学に向けてー審美性への着目から、コンタクト・ゾーン= Contact zone、査読無、9 号、2017、264-278

〔学会発表〕（計　5　件）

① 宮脇千絵、伝統的な装いの商品化による「晴れ着」の創出－中国雲南省モンの事例から、日本文化人類学会第 52 回研究大会、2018 年 6 月 2 日

② 宮脇千絵、跨境蒙人的人口流动和接触地带ー以博物馆为例、四川大学国際ワークショップ「现代中国的人口流动和族群关系」、2018 年 3 月 24 日

③ 宮脇千絵、移動する商人と「民族衣装」の流行―雲南省モンのエスニシティ、南山大学人類学研究所公開シンポジウム「移動と流行―現代中国のコンタクト・ゾーン」、2017 年 12 月 2 日

④ 宮脇千絵、中国雲南省モンのハレ着観と現代における「新しいデザインの服」の展開、民族藝術学会第 147 回例会、2017 年 11 月 26 日

⑤ Chie MIYAWAKI、Ethnic Dress as Fashion and Tradition: A Case Study of the Hmong in Yunnan, China、Canadian Anthropology Society / International Union of Anthropological and Ethnological Sciences 2017 Conference in Ottawa、2017 年 5 月 4 日

〔図書〕（計　2　件）

① HAN Min, KAWAI Hironao, MIYAWAKI Chie et al., Family, Ethnicity and State in Chinese Culture Under the Impact of Globalization, Bridge21, 388p, 2017

① 宮脇千絵、装いの民族誌―中国雲南省モンの「民族衣装」をめぐる実践、風響社、306 頁、2017

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。